

論説

「くしゃみをするのは、ひとに刀を抜くことと同じ」

(リチャード・ゴードン著

「世界病気博物誌」)。

スペイン風邪のことである。

第一次世界大戦時、米

軍兵営の集団感染から広が

ったインフルエンザは、1

918(大正7)年秋、日

本に上陸した。

交戦国は感染を隠し、中

立国スペインでの猛威が先

宮武剛

感染爆発

100年前の悲劇と教訓

行報道されたのが命名の由り苦しむ中年男の金之助」
来だ。世界の死者は少なくを描いた。そのユニークな
とも推定4千万人(WHO)、作業が「当初予想もしなか
日本で38万9千人(内務省)。つたスペインかぜのドラマ
言葉を失う惨状である。
立川昭二の名著「病の
人間史」(新潮社、1998
9年初版)も、この感染爆
発に触れている。もともと
島村抱月(48)が介抱して
直撃されていた。

し、宮沢賢治は女学生の妹
の看病に上京し、「便の始末
から服薬」まで面倒をみた。
長崎の医学部に赴任した
と変わらない。
異なるのは、100年前
は国民の多数が免疫抗体を
得るまで耐えるほかなかつ
たが、現代医学は、ワクチ
ンと治療薬の開発までであ
一息である。

正岡子規、夏目漱石、樋口
一葉、中江兆民、乃木希典
ら著名な10人の病歴と死病
に焦点をあて、例えば「文
豪としての漱石でなく自分
のからだをもてあまし痛が
村で野口シカ(65)が流行
風邪で逝く。ニューヨーク
へ電報が打たれた。医学者
・野口英世の母である。
竹久夢二は愛児が熱を出
た。対策は「マスク着用」

みやたけ・ごう NPO法人福祉
フォーラム・ジャパン副会長、学校
法人・社会医学技術学院理事長

「寒き雨 まれまれに降
り はやりかぜ 衰へぬ長
崎の年暮れむとす」。37歳
の歌人・茂吉の詠嘆は2年
も続く感染爆発を予測する
かのようにだ。
当時はウイルスが病原と
分からず、ウイルスを発見
可能な顕微鏡さえなかつ
た。対策は「マスク着用」
(本紙論説委員)